

令和2年12月7日  
京都市立桃陽総合支援学校  
校長 石原 廣保

## 令和2年度学校評価前期アンケート結果のご報告

令和2年度学校評価に係る前期アンケートにご協力いただきありがとうございました。

児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケート結果から、桃陽総合支援学校の教育活動について、分析・考察を行い第2回学校運営協議会で報告いたしました。

皆様からいただきました貴重なご意見を参考に、さらなる教育活動の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。本誌面ではアンケート結果から、いくつかの項目を取り上げてご報告いたします。

### 【確かな学力について】

「学校生活は楽しい」という項目では、小学部の児童については昨年度と比べて16%ほど肯定的な意見が少なくなっていますが、中学部の生徒については例年と変わらない結果となりました。

今年度はコロナ感染防止のため、5月いっぱいまで休業期間でしたが、休業期間中も配信で学校と子どもをつないでおりました。現在も、分教室では登校することができない病院もあり、配信でのみの授業など、コロナ感染拡大防止のため、まだまだ例年のような学校生活ができていない部分もあります。そのことが、小学部の児童にとって、例年より肯定的な意見が少なくなることにつながったのではないかと推察されます。

「勉強はよくわかる」という項目では、小学部の児童は昨年度より肯定的な意見が7%程度減少しましたが、中学部の生徒については、肯定的な意見が増えました。また、「タブレットPCや電子黒板を使って学習することで、よくわかる。」という項目においては、小中学部ともに肯定的な意見が昨年度より減少しております。

今年度は昨年度よりもタブレットPCによる配信での授業も多く、ICT機器を多く活用してきました。配信での映像・音声のトラブルや、分教室に登校できずに、ずっと配信で行う授業のストレスなど、肯定的な意見の減少に影響していると推測されます。

### 【豊かな心について】

「自分にはよいところがある」という項目では、小学部は昨年度とほぼ変わらない回答でした。中学部は昨年度より16%減少し、肯定的な回答が48%となりました。入院中の児童生徒の中には、入院したことで自己肯定感が下がる子どもたちもいるのではないかというご意見を評議員の方より言っていただきました。入院している児童生徒の自己肯定感をどのように上げていくか、考えていく必要があります。

「相手の人の気持ちを考えて行動している」の項目では、小中学部ともに肯定的な意見が80%を超えていました。児童生徒は病院での生活があるので、共に過ごす場面が多くあります。その中で相手のことを思って行動しようとする思いが自然と培われてくるのだと推測されます。

### 【すこやかな体について】

「私の悩みや困りごとを聞いてくれる人がいる」の項目では、小学部は昨年度100%肯定的な意見でしたが、今年度は75%ほどになりました。コロナ感染拡大防止のため、学校が休業期間中は自宅での学習となるなど、なかなか自宅以外で人と関わることができなかつた期間が長かったため、例年より肯定的な意見が低い結果となったと考えられます。

「病院の先生や看護師さんに言われたことを守る」の項目では、中学部は63%から79%に増えました。コロナ感染拡大防止のため、中学部の生徒は、今まで以上に病院の先生や看護師さんが言われたことを守ろうとする意識が高まったためだと考えられます。

アンケートや学校運営協議会でいただいたご意見を、今後も保護者、学校関係者のご協力をいただきながら教育活動全体に活かしていきたいと思います。